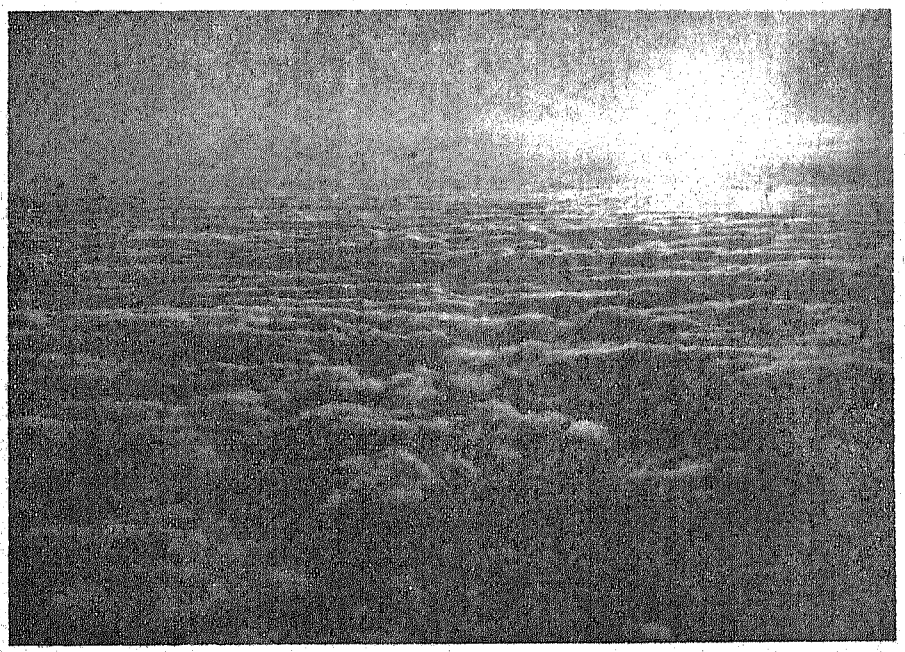
千曲會報 四

社團法人千曲會　第二十四號　昭和十八年一月二十五日



祥瑞

目次

△大詔奉戴日及始業式訓辭……井上柳梧（二）
△聖戰完勝と科學者陣……浦生俊輿（三）
△本會記事……（四）
○本會日誌
○支會役員改選
○銃後資金應募者
○遠藤先生退官記念品受領報告
○會費領收
△就任辭令……（四）
△訃報……（五）
○有志弔慰金に對する遺族よりの禮狀
○弔慰金募集
○中會根長男氏弔慰金募集中止
○弔慰金報告
○故尾崎吉俊君の靈を弔ふ……平田孝康
△石倉先生記念品贈呈資金募集……（五）
△昭和十六年度千曲會收支決算表……（六）
△社團法人千曲會第三回總會……（六）
△第三回千曲會總會理事長挨拶……（六）
△名譽會長挨拶……（八）
△昭和十七年度千曲會收支追加豫算表……（八）
△會務報告倉澤理事……（九）
△昭和十八年度千曲會收支豫算表……（九）
△第三回千曲會總會出席者氏名……（一〇）
△隨筆　炎をうへる迄……抱一（一一）
△基本財産表……（一二）
△基本金管理區分表……（一二）

大詔奉戴日及始業式訓辭

井上柳梧

本日は大詔奉戴日であり尚又本年に於ける授業開始の日である。我々は諸君と共に聖旨に添ひ奉る樣決意を新にすると共に本年に於て處すべき心構を強化すべきである。新年に於て最も重要なる事は過去の歷史を顧て本年に於て行ふべき道を確立して是を實行すべき計を立つることである。

大東亞戰爭昨年一ヶ年間の戰果は實に有史以來嘗て無き偉大なるものであつたのである。長くは數百年短きは五十年に亘り亞細亞を侵略し支配して來た米、英蘭の軍事據點を悉く覆滅し去り其政治的經濟的勢力を一掃してしまつたのである是は實に大稜威の然らしむるところ皇祖皇宗の御神靈の御加護による所であり、我が尊嚴なる國體の發顯によるものであつて一億國民の等しく感激に堪えない所である。

併しながら是れによつて此戰爭が終局に近づいたと謂ふのでは無いのである。我々は昨年に於ける輝かしき勝利を祝福すると同時に本格的の戰爭は是れより開始されるのだと謂ふ事の認識を新にし其覺悟を強固ならしめなければならならのである。

言ふまでも無く大東亞戰爭は單に大東亞に於ける米英勢力を擊攘し、驅逐すると謂ふ事態に盡きるものではないのである。我々は過去數百年に亘りて亞細亞を侵略し搾取して居つた米英の政治的、經濟的支配力を粉碎し眞に亞細亞人の亞細亞たらしめ、亞細亞人自らによつて畫かれた亞細亞の歷史と文化とを回復し日本を中心とする道義に基く大東亞の新秩序を建設すると謂ふ事である。

從て今回の戰爭は我國の國策としての權威の爲め許りでなく大東亞諸民族を米英の侵略より解放し其分に應じ、其の性に隨て各々其の所を得しむることにあるのであつて、夫れは我が肇國の八紘爲宇の大理想に基く積極的なる建設創造の戰ひなのである。而も其戰爭の相手は彪大なる物資と生産力を誇る國であり軍事的經濟的に於ても米英の一國を取りて見ても世界の強敵である國を同時に二ヶ國を相手にするのであり、而も米英の支配によりて汚されたる東亞の天地に滯らかなる新天地を打ち建てると云ふ此大事業が決して一朝一夕の努力によりて實を結ぶと謂ふ樣な生やさしいことで無い事は明かなのである。茲に於て我々は長期持久戰に對する確固不拔の信念と努力とが必要である。我々は諸君と共に等しく反省し自覺を要する點があるのである。我々が此戰に勝ち拔かん爲めには生產力の增強、戰力の培養は絕對に必要でありしかも夫れは個人主義的、營利主義の觀念に立つ限り不可能の事である。國家が戰爭に勝つ爲めには個人の利益を克服しても戰爭遂行の爲めの國の生產力を擴充し强化しなければならぬ。若しも國民の心の中に國利公益を忘れた個人主義的、營利主義的觀念が潛在して居るとしたならば我々は思想的、經濟的に米英と戰に勝つ事が出來樣か。我々は此の如き米英的な思想や文化を何によりも先きに打破し大和魂を心の底より躍動せしめ、あらゆる事を以て大御稜威に奉仕すると謂ふ事に歸せしめなければならないのである。

米英侵略の桎梏から大東亞諸民族を解放し大東亞を道義に立脚する清らかな新天地として恢弘せんとするこの戰のもとにあつては米英の唯物主義、合理主義の如きは積極的に撲滅せしむべきものである。此大東亞戰爭を遂行するに當りては米英軍を直接相手とする武力戰のみならず國民の心の中に是等敵性思想が存在し得ると云ふ事を國民は反省し自覺しなければならぬ。而して我々一億國民は是等の思想を撲滅せしむべき思想戰、文化戰の戰士たる事を常に忘れてはならないのである。今回の戰爭は個人主義、自由主義の米英世界侵略が持續するか將た、我が肇國の精神である民族や國家が各々其の所を得て眞正の世界平和の新秩序が建設せらるゝかの天下分け目の大戰爭である。我々は實に世界を新に創造すると謂ふ事即ち新なる世界史を打ち建てると云ふ大なる聖業に協力して居るのである。年の初めに當りて現下に於ける我々の重大なる責務を深く反省し戰爭遂行に對する協力と努力とを徹底的に强化しあらゆるものを捧げてひたすら上御一人の天業を翼贊し奉らんとの決意を更に新にしなければならぬのである。

本學期は一ヶ年の最初の學期であると同時に學年の最終の學期である。卽ち諸君に取りては最も重要なる學期である。諸君が現下の時局が如何に重大であるかを深く考へ諸君に課せられたる責務は如何に重きかを思ひ更に將兵の決死的の奮鬪に思ひを及ぼしたなれば不勉强にして不良なる成績を得ると謂ふ樣なことは如何にしても出來る筈がないのである。本學期は寒氣凜烈にして諸君の身心鍛鍊には最も適して居るのである。諸君は宜しく寒稽古に、スキーに進みて參加し武道精神の練磨に、體育の鍊成に志し大に青年の意氣を宣揚しなければならぬ。

茲に決戰下の新年の授業開始に當り諸君は自重自肅大戰下の學生として一段と奮勵努力しなければならぬ。是を以て本日の訓辭とする。

謹賀新年

昭和十八年元旦

上田蠶絲專門學校

井上柳梧

職員一同

謹賀新年

昭和十八年元旦

在校千曲會員一同

聖戰完勝と科學者陣

蒲生俊興

大御稜威のもと忠勇義烈なるわが皇軍將兵の奮鬪努力と銃後國民の熱血溢るゝ愛國的精勵の賜物として、過去一ヶ年間に亘る有史以來稀に見る赫々たる戰果のうちに漸く大東亞戰爭は第二年目の段階に到達した。皇國の興廢を賭する一大決戰も先づ緒戰の域を脫して、中盤戰の決勝期に這入つたが、既に皇軍の確固たる不敗の布石によつて大東亞共榮圈建設の礎石を確立して了つたことは洵に御同慶の至りである。

然し乍ら敵は第一次歐洲大戰以來蓄積した莫大なる資源と科學技術を總動員し今、明年中に一大反擊を試みんとして、盛んに天文學的數字を揭げて宣傳に之れ力め、國民の敵愾心を煽つてゐる有樣であるから、我等も亦既往の戰果に醉ふことと無く彼に劣らざる一大決心のもとに生産力擴充强化に因る國民所得の增加を圖り、同時に國民消費生活の切下に協力して長期戰財源の增强を敢行し、他方科學知識の振興普及を徹底せしめ、戰爭及生産科學に於て劃期的なる獨創的躍進を實行して開闢以來の大戰を勝ち拔くことは名譽ある現聖代に生を享けた吾々の絕對責任であり、且光榮と言はねばならぬ。

さて我が邦は大東亞戰爭勃發以來海外諸國との學術上の交流を一切斷たれ、我が學界は全く獨自の努力によつて進路を拓くべく餘儀なくせられた譯であるが、事變以來の我が國民の自覺と政府の科學振興政策の結果自然科學に於ても、人文科學に在りても未曾有の進展を示し、文部省直轄及各大學附屬の研究所の開設又は擴充せられたもの實に多數に上り、五十に餘る科學技術團體や百數十に及ぶ科學技術關係定期刊行物が科學振興の爲に莫大なる貢獻をなし來つた事は申迄もないが、大東亞戰爭の現下に於ては當に基礎科學より工學、農學及び醫學等の應用科學に亘り夥しい業績が公表せられつゝあることは誠に力强い限りである。

從來の本邦科學の水準は歐米諸國に比し稍々低位に在り、研究の設備に於ても國民全般の科學的常識の上から見ても、彼に一籌を輸さねばならなかつたことは周知の事實であつた。固よりかゝる事實は必らずしも日本民族の科學的知能の低級を物語るものではなく、謂はゞ立ち遲れの觀があつた丈けである。殊に科學基礎知の吸收と之が體系化に汲々たる間はその源泉國に對する尊敬や依賴心も自ら强く、基礎科學方面に於てはこれまでは殆ど他力的、模倣的な向上を示して來たのであつたが、大東亞戰爭開始以來は外國文獻に對して全く孤立の狀態に置かれ恰かも暗夜に光明を失つた如く洵に心細さを覺えざるを得ない。併し斯る狀態は一面に於て本邦科學者に對する一大試鍊であり、自己反省へのための好適期と考へねばならぬ。

此の如く本邦科學者の總てが全く他力本願を清算して、夫々の專門的立場で自覺的認識の下に起ち上り、飽く迄國家目的完遂の爲に邁進せらるゝならば我國の科學水準も必らずや世界一流の域に達し得るものと考へられる。今試みに開戰直前に於ける米國化學會の會員數は約二万八千餘名で本邦の一万二千名に比し約二倍半の優勢を示してゐる外、各大學及研究機關の完備を思ふ時、吾が銃後科學者陣に於ても全く曩如たるを得ない有樣である。

科學的基礎知の實用化即ち獨創的な發明發見が一國文化の進展或は國力の增强に莫大なる貢獻をなし來つた事は申迄もないが、大東亞戰爭の現下に於ては當に凡有る方面に於ける獨創性の發揮が愈々熱望される秋である。今試みに昭和十三年當時の特許出願數と登錄數に就て各國を比較すれば左表の如く、日本は出願數に於ては獨、米に亞いで第三位を占めて居るが登錄から觀ると獨、米、英に次いで第四位となつて居り、出願數に對する登錄數割合は六ヶ國中最低位の三六%弱に過ぎない有樣である。

國名	特許出願數	登錄數	對特許出願數登錄數割合
ドイツ	一〇六、三〇〇	四二、三〇〇	四一・八%
アメリカ	六六、八〇〇	二七、四〇〇	三七・五
日本	三〇、八〇〇	八、一〇〇	三五・六
イギリス	三七、九〇〇	九、三一〇	二五・〇
フランス	一八、〇〇〇	一四、〇〇〇	七七・八
イタリヤ	一三、〇〇〇	一、〇〇〇	九・七

最近漸く南方諸地域に對する調査研究も活潑となり、東大南方科學研究會の出發、學振、學研の諸委員會を初め官民百餘の團體が結成せられ、佛印及び山西省の學術探險、科動の稀元素調査團派遣、東亞諸民族調査會蒙疆調査その他各團體によるニューギニアその他地域の調査等が企圖又は實施せられ、南方資源の開發も漸次軌道に乘つて來ることゝ考へられる。

斯くの如く中央に於ける科學局や各研究機關、技術院等所謂科學研究に關する制度は時局柄大飛躍的な進展を示し、その形式上の組織即ち御膳立は完く整備せられたと見て差支へないが、要は研究者自身の發奮に待つのみと言はざるを得ない。

飜つて蠶絲學及び一般纖維學方面に於ては大東亞共榮圈内に於ける衣料資源の窮迫と相俟つて、今後益々活潑なる增産と新研究とが要望せらるゝことは申迄もない。只冀くば南方諸地域に於ける纖維資源の生産及び諸民族に依る衣服地の需要狀況調査等に對しても蠶絲纖維を專門とする學徒の出動を最も急務と信ずる次第である。

以上は過去一ヶ年間の科學界を回顧し聖戰完遂上吾等に課せられた貴務の一端を披瀝して會員諸兄の御叱正を仰ぐ次第である。

御挨拶

拜啓　新春の御慶先づ以て目出度申上候
陳者私儀愛知縣在勤中は公私共多大の御厚情を賜はり感佩罷在候處昨年十二月十七日附を以て鹿兒島縣勤務を命ぜられ同時に經濟部蠶絲課長、蠶業取締所長を拜命致候に付ては今後共相變らず御指導御援助の程御願申上候　旁々御挨拶申上度如斯御座候　先は右御禮迄　草々

昭和十八年一月日

鹿兒島縣廳蠶絲課

芝　荒雄

御挨拶

拜啓　極寒の候益々御淸祥の段賀上候
陳者私儀東洋紡績株式會社勤務中は一方ならぬ御懇情を蒙り奉深謝候　今般母校副手を拜命し紡織科に勤務致すことに相成候に就いては一層の御指導御鞭撻を賜り度奉懇願候　右不取取敢御禮旁々御挨拶迄如斯御座候　敬具

昭和十八年一月

紡織科

和田利章

本會記事

本會日誌

十二月三日　故仮田省三氏の公葬執行せらる、本會を代表し土岡光郎氏參列す

十二月七日　故古東幹太氏外二名の御遺族へ有志弔慰金贈呈す

十二月二十二日　會員名簿發送す

十二月二十五日　本會役員及在校同窓生會合懇談會開催す

十二月二十六日　會報第二十三號發送す

十二月二十八日　福谷朝太郎氏逝去せらる、弔詞を呈す

支會役員改選

安銃千曲會に於て總會開催左の通役員改選せり

支會長　丸山俊一郎
副支會長　依田寛之助
代議員　石井謙三
同　降旗孝三
常任幹事　輪貞德
事務所　松本市紫町松本工業試驗場內

銃後資金應募者

（頭書ニ2、トアルハ第二回醵出者
3、トアルハ第三回醵出者）

2、金拾圓也（寄附）　平尾孝平
3、金弐圓也　皆川二郎
右合計金拾弐圓也
累計金壹千五百九拾七圓四拾參錢也

遠藤先生退官記念品贈呈資金受領報告（一月五日現在）

一金弐圓也　廣井俊一
右合計金弐圓也
累計金八百四圓也

會費領收（一月五日現在）

入會金納入者

兜納者
沓掛　久雄（甲九）
竹内　好武（甲三）
川谷壽一郎（甲三）
芳谷　富雄（甲四）
重田　正喜（甲六）
見田　秀雄（甲三）
杉浦　彰義（絲三）
土生　珀二（絲四）
西井　茂雄（絲六）
齋藤　和夫（絲六）
宮崎　博（紡二）
松尾　祐次（紡三）

金拾圓也
清水　彰（甲六）
坂根宗太郎（紡三）

金五圓也
若林　爲夫（甲八）
杉浦　卓三（甲三）
玉田城三郎（甲四）
秋山　利夫（甲四）
阿形　一三（甲五）
山田東洋男（甲六）
箱山　佳夫（甲六）
今井　省吾（甲七）
柳澤　一郎（甲七）
小山　富治（甲七）
桂　正三（甲九）
米澤　保正（絲三）
小松　正敏（絲四）
石原　二人（絲六）
飯田　國藏（絲七）
佐多　直道（絲七）
山口　亮祐（絲七）
中村　廣（絲七）
鷹野睦二郎（絲九）
榊　信夫（紡二）
中森　謹二（紡二）
手塚　勇（紡三）
佐藤　佳良（紡六）
植田　實（紡七）
濱村　一彦（甲九）
田澤　輝雄（甲三）
北原　至（甲三）
有川　博（甲六）
清水　寛（甲九）
藤井　溫彦（絲九）
高原　稔（絲三）
首藤　行雄（絲四）
牧野德太郎（絲七）
佐久間幸一（紡一）
中田　正信（紡七）
天野　定夫（化一）
林　正信（絲九）
橋詰　紀人（紡二）
辻本　勇（甲九）
水谷　清（甲二）
戸塚　一（甲六）
小木曾員佐雄（甲六）
瀧澤　七郎（甲六）
鈴木　彦佐（甲六）
小山　長雄（甲六）
楠八重行雄（甲七）
丸山　喜久（甲七）
阿部　忠雄（甲八）
矢村　正夫（甲九）
林　英雄（絲三）
原口惣一郎（絲三）
井上　正人（絲六）
小林　剛（絲七）
竹内　五郎（絲七）
湯本益次郎（絲七）
壹貫目巧三（絲九）
武藤　洋一（絲九）
丸山　力三（紡二）
大森　一男（紡三）
北澤　茂樹（紡六）
小林　典夫（紡六）
高橋　卓爾（紡七）
小林　憲三（紡九）
松本　直（紡二）
加藤　隆正（紡三）
木内　勳（紡二）

昭和十八年度會費金四圓也

長倉　稔（甲三）
重田　正喜（甲六）
高原　稔（絲三）
小川　典二（絲六）

昭和十七年度會費金四圓也

宇多田泰熊（甲六）
吉田　隆雄（甲三）
笹本　保雄（甲三）
藤本衛佐雄（甲六）
三瓶常四郎（甲七）
町野　巖（甲九）
市川　信一（甲三）
牧島　章吾（甲三）
北原　至（甲三）
岡田　貴雄（甲三）
小山　富治（甲七）
栗原　保定（絲七）
森　忠太郎（絲九）
森西　廣充（絲三）
小澤　正一（絲六）
原田　正彬（絲三）
黒瀬　信勝（絲四）
井上　正人（絲六）
佐多　直道（絲七）
高橋　公一（絲九）
唐澤　正（紡三）
門田　勇（紡三）
高岡　成份（紡九）

終身會費納入者

見田　秀夫（甲三）

昭和十九年度會費金四圓也

長倉　稔（甲三）

昭和二十年度會費金四圓也

長倉　稔（甲三）

未納會費納入者

金弐拾四圓也（昭和十一、十二、十三、十四、十五、十六年度分）
高原　稔（絲三）

金拾弐圓也（昭和十四、十五、十六年度分）
岡田　貴雄（甲三）

金八圓也（昭和十三、十五年度分）
川谷壽一郎（甲三）

金四圓也（昭和十六年度分）
藤本衛佐雄（甲六）
西澤　重光（甲三）
井上　正人（絲六）
長倉　稔（甲三）
西井　茂雄（絲六）

準會費納入者

金弐圓四拾錢也（昭和十五、十六、十七年度分）
松村志滿子（教八）

金八拾錢也（昭和十七年度分）
橋詰美知子（教六）

中島　滿展（紡三）
砂田　正義（紡三）
伊藤要次郎（紡三）

叙任辭令

現職員之部

三級俸下賜
教授　佐藤春太郎
同　古谷榮藏

六級俸下賜
同　倉澤美德

八級俸下賜（以上十二月二十八日）
同　野口新太郎

卒業生之部

六級俸下賜（九月三十日）
公立實業學校長　林新一
農林技手　宮前邦雄

任陸軍技師、叙高等官七等（十二月九日）
公立高等女學校教諭　山岸武

丸子實科高等女學校教諭ニ補ス（十二月十五日）
八級俸下賜
正八位　北原基

叙從七位（十一月十六日）
地方技師　芝荒雄

鹿兒島縣勤務ヲ命ス（十二月十七日）
地方技師　金崎眞英

八級俸下賜、依願免本官（十二月十九日）
蠶科農學校兼蠶科　關芳男
家政女學校教諭

公立實業學校教諭ニ任ス、高等官七等待遇
右兩校教諭ニ補ス
生絲檢查所技師　大池登

七級俸下賜（以上十二月二十四日）
特許局技師　兒玉忠雄

三級俸下賜　依願免本官
地方技師　石原石司

依願免本官（以上十二月二十六日）
公立實業學校教諭　原茂

七級俸　賞分千五下賜（九月三十日）
百六拾圓

本校辭令

副手　藤本　齊
願ニ依リ副手ヲ免ス（十一月二十五日）

副手　北村元三郎
願ニ依リ副手ヲ免ス（十二月十二日）

講師　石倉新十郎
願ニ依リ講師囑託ヲ解ク（十二月二十八日）

副手　吉越榮夫
副手　岡山寺豊一
傘職師ヲ囑託ス（一月二十一日）

計報

有志弔慰金に對する遺族よりの禮狀

十二月二十五日　廣島縣賀茂郡川上村
故飯田　省三氏　父　飯田　常登

十二月二十六日　上田市常入町
故古東　幹太氏　妻　古東セ良子

故唐澤　正氏（紡十三）
故原　利直氏（絲十一）
故坪　滿氏（蠶廿九）
故尾崎吉俊氏（紡廿一）
故福谷朝太郎氏（蠶一）

以上五氏に對し弔意金を蒐集致しました。故唐澤氏、故原氏、故坪氏、故尾崎氏は二月末日故福谷氏は三月末日迄に取纏め御遺族へ贈呈致したいと思ひますから夫れに間に合ふ樣振替口座東京四三三四一番へ各故人に對する弔慰金の旨御記入の上御拂込下さい。

昭和十八年一月
社團法人　千曲會

弔慰金募集

中會根長男氏弔慰金募集中止

既に廣告中の中會根長男氏弔慰金募集は之を中止し別に遺兒養育資金の名目にて蒐金致すやう有志に於て計畫中ですから右御承知願ひます。

弔慰金報告（一月五日現在）

故渡邊善次氏弔慰金
金貳圓也　皆川　二郎　橫山　良穀
右合計金四圓也
累計金拾九圓也

故中會根長男氏弔慰金
金參圓也　今村　良鄕
右合計金參圓也
累計金參圓也

故原利直氏弔慰金
金壹圓也　今村　良鄕
右合計金壹圓也
累計金壹圓也

故唐澤正氏弔慰金
金參圓也　目崎　三郎
金貳圓也　武井　和夫
右合計金五圓也
累計金五圓也

故尾崎吉俊氏弔慰金
金貳圓也　目崎　三郎
右合計金貳圓也
累計金貳圓也

故尾崎吉俊君の靈を弔ふ

半田孝康

人生轉た朝露の如く人の世の儚なさは、古來人の傳ふる處なるが、今日、君を臺北の野邊に送らんとは、誰が信ずるであらう。想へば、君は遙か太洋を越へて臺北帝大に學ぶ君の止む事なき向學の志は前途尚有望なるものありし、然るに渡臺後、日淺くして風邪を患ひ、その延長は遂に肋膜炎と診斷さる所となる、君が私の下宿に相談に來たのも昨日の樣な氣がする、その時君は大分蒼青な面をして居られた。間もなく歸國靜養さる、約六ケ月後全快の知らせをくれた時は、私も大變嬉しかつた。十一月上旬に元氣な顏を見せて君の奮闘は再び開始されたのである。然るに約一ケ月後の五日（十二月）君の入院の手傳ひをする事となり俄りの急に何も云へなかつた程である。善い方に向ふ筈の君の入院は一日成らずして、六日未明他界に旅立つ所となる。呼べども答へぬ人となられたのである。嗚呼悲しい哉、而も君が病因は解剖の結果ならでは不明との事であつた。只恨むらくは醫學が君の病魔に一刀のメスを施すを得なかつた事である。重ねて云ふ、君は年若くして大學の過程に學び、今後多大の期待をかけられ、その前途は國家の爲めにも重大な責務を双肩に擔ふ所となりし時、惜しいかな學半ばにして不歸の客となる、惜しみても尚餘りある所なり誠に臺北に學ぶ同窓生として痛苦おく所を知らざるなり。此所に君が生前の一端を偲び謹んで哀悼の意を表する次第、冥くば君が靈永へに憂くあらん事を。合掌

（十七、十二、十）

石倉先生記念品贈呈資金募集

拜啓　時下愈々御淸適之段奉慶賀候
儲て御承知の如く石倉先生は母校開設と殆んど同時なる明治四十四年十月御就任以來今日迄實に參拾有餘年の久しきに亘り母校のため將又我國絹業開發のために全力を傾けて御盡瘁下され其御功績眞に甚大にして吾々會員一同常に感佩に不堪處に有之候
然るに今般御家庭の都合上、內外の御留任懇請も御聽容れ願へず母校御退職の上最近建築竣工せる東京郊外の御新居に御轉宅被遊候就ては此際先生の御功績を讃え且多年の勞に酬ひんため資金を募集し記念品を贈呈し聊か感謝の微意を捧げ度く候間左記要項御諒承相成御贊同の上御醵金被下度此段御依頼旁々貴意得候

敬具

記

一、募集要項
一、醵出金額　御隨意
一、申込期限　本年四月末日
一、送金先　上田蠶絲專門學校千曲會宛（振替口座長野六二四三番）但石倉先生記念品贈呈資金なる旨御明記願上候
一、受領證及收支淸算報告　千曲會報五月號の紙上にて報告す
一、記念品の選定及贈呈方　發起人に御一任相成度

以上

昭和十八年一月

發起人（順序不同）

鈴木　敎吾	林　貞三
森山　二郎	蒲生　俊興
倉澤　美德	野口　新太郎
松村　季美	小松　忠一郎
湯原　淸諄	小林　尙一
香山　和雄	遠藤　文平
兒玉　忠雄	

社團法人千曲會 第三回總會

總會次第

十一月二十一日午前九時より母校千曲會館に於て社團法人千曲會第三回總會（第十六回代議員會）開催さる。出席者は井上名譽會長を初め十六支會の三十五名、在校會員二十一名で國民儀禮の後、蒲生理事長開會の挨拶と共に蠶絲繊維業の現狀と本會發展に就て述べ次いで井上名譽會長の挨拶、倉澤理事の會務報告があつた後、議長選擧となり、理事長指命により議長には北信支會猪坂直一氏、副議長には東京支會富岡秀氏が決定して議事を進めた。會は正午に於て一時休會となり一同圖書閲覽室に設けられた食堂にて晝食、次いで記念撮影、母校及會員の殉國英靈供養塔前にて禮拜をなし休憩の後一時再會、四時議事を終了した。五時半より市内香雪軒に於て懇親會を行ふ。

此の日は秋光麗かに晴れて空には一點の雲もなく、染屋臺を隔てゝ彩ゆる烏帽子、阿妻の山々に抱かれて立つ母校が遠來の會員各位を迎ふるにふさわしい好天氣であつた。又當日は在校生の軍事査閲が行はれ、各教官も出席されて賑々と擴服された校庭に展開された各種の演練は決戰下學徒の意氣を發揚し頗しき限りであつた。

第三回千曲會總會理事長挨拶

本日第三回千曲會總會を開催するに當り一言御挨拶を申上ます。代議員及會員各位には遠路の所萬障御繰合せの上臨席下さいまして厚く御禮申上げます。吾が千曲會も着々と盛んとなり現在會員は二千二百三十六名を突破してゐます。即ち事業年次繰上げの結果昨年十二月に入會された百九名と、本年九月第三

昭和十六年度社團法人千曲會收支決算表

收入　收入豫算高　一金七千百貳拾六圓也
　　收入決算高　一金七千六百七拾五圓貳拾八錢

支出　支出豫算高　一金七千百貳拾六圓也
　　支出決算高　一金六千四百七拾貳圓六拾八錢
　　收支差引金千貳百貳圓六拾錢
　　昭和十七年度へ繰越ス

右總會ノ認定ニ附ス

昭和十七年十一月二十二日

社團法人千曲會理事長　蒲生俊興

收入

決算説明（△印ハ減）

科目	決算額	種目	本年度決算額	本年度豫算額	增減	附記
財産ヨリ生ズル收入	一、一〇〇、〇〇	基本財産收入	一、一〇〇、〇〇	一、一〇〇		
		預金利子	一、一〇〇、〇〇	一、一〇〇		
繰越金	九七八、八五	前年度繰越金	九七八、八五	九七八、八五		前年度剰餘金
雜收入	三三一、一〇	廣告料	三三一、一〇	四一〇	七九三、八五	豫算ニ對シ金百四十一圓十錢增シタルハ登載者多カリシニヨル
		印稅	一九〇	一九〇	一、〇〇	本日收入ナキハ出版物ナキニヨル
		雜收入	三一、三五	五〇、三五	一八、七五	豫算ニ對シ金十二圓七十七錢減シタルハ當座預金少キニヨル
		現金預金利子	三一、三五	五〇、三五	一八、七五	豫算ニ對シ金三十五圓九十錢減シタルハ不用品ノ賣却少キニヨル
會費	三、四五一、一〇	入會金	一、五〇二、〇〇	一、五〇〇	二、〇〇	豫算ニ對シ金十三圓減シタルハ納入者少キニヨル
		正會員會費	三、四五一、〇〇	三、四五〇	一、〇〇	豫算ニ對シ金二百八圓減シタルハ公用者多キニヨル
		準會員會費	九、一〇	九、一〇	一、〇〇	豫算ニ對シ金八十圓八十錢減シタルハ徵收期ヲ延期シタルニヨル
寄附金	五、八〇	指定寄附金	五、八〇		五、八〇	本月收入ナキハ寄附者ナキニヨル
		一般寄附金	五、八〇		五、八〇	豫算ニ對シ金十四圓二十錢減シタルハ寄附者少キニヨル

十回卒業生百二十八名が入會され其れに準會員十二名が加はり、正會員二千六十四名、準會員百七十二名となりました。特に記念すべきは纖維化學科第一回卒業生三十三名を出したことであります。此れは皆様と共に慶賀にたへない次第であります。只いかんなことは昨年の總會以來死亡者を出し其のうち戰死者四名を出してゐます、誠に哀悼に堪えない次第であります。此處に一同を代表して謹んで追悼の意を表します。

此れに加えて報告する事は元本校配屬將校谷大佐（死後少將）が戰死されたことが昨日通達されまして此れ又哀悼にたへない次第であります。尚本會々員にして時局下皇國のため第一線に活躍してゐるものが〇〇名の多きに達してゐます。此等の各位に對しては感謝に堪えない所でありまして會を代表して厚く御禮申上ます。又同窓中護國の神となられましたものも〇〇名に達してゐますが此等の諸君に對しては深く哀悼の意を表します。

次に母校の形勢に就て申上ます。製絲科長大瀧先生は本年三月退官され引續き講師として殘られてゐます。又行元生徒主事は陸軍司政官として南方に行き代りに岡田先生が新任されました。此れに對しては後刻總會の決議で贊助員に推擧したいと思ひます。

尚本會提案及支會提案の諸問題は何れも學校の前途に對する重要なる問題であり、此れに對しては充分なる御審議を願ひ將來に對處したいと思ひます。次に本年度は役員改選期となつてゐます、どうか時局に適した人々を御選任して下さる樣願ひます。又學校當局として提案諸問題に關係する事項に對し理事者として報告申上ます。卽ち今學校内に於ても將來に對處するため内容に就て委員をあげて調査究研してゐます。

最後に報告することは針塚賞に就てであります。此れに就ては先般來より針塚先生の寄附金と本會よりの出金合計金六千圓の元金があり此の利子によりて賞を呈してゐます。受賞者は母校並に本會に功勞の顯著なるものを

收入合計

七、六七五、二六

支出

決算說明（△印ハ減）

科目	決算額	種目	本年度決算額	本年度豫算額	增減	附記
一會議費	三三五、三六	一總會費	三三五、三六	四一五	△七九、三三	豫算ニ對シ金四圓三十錢減シタルハ代議員ノ出席少キニヨル
	二九五、六九	二代議員旅費	二九五、六九	三〇〇	△四、三〇	
		二需用費	三三、七〇	三〇	△六九、九九	
二事務所費	一、一二七、二〇	一給料	一、一二七、二〇	一、一五	△七五、一二	豫算ニ對シ金五十二圓六十八錢減シタルハ役員ノ出張少キニヨル
	三六七、四〇	二幹事給料	三六七、四〇	四〇〇	△三二、六〇	
		一役員旅費	七、三五	二〇	△一二、六五	
	四九六、四三	二雜給	四九六、四三	四九五、四〇	一、〇三	豫算ニ對シ金二十二圓四十三錢減シタルハ物品ノ買入レ少キニヨル
		二書記給料	四九、一二	五五	△五、八八	
	三六三、二八	三需用費	三六三、二八	三六〇	三、二八	本月支出ナキハ幹事欠員ナカリシニヨル
		一旅費	四、〇〇	四〇〇	〇〇	
		二傭人給料	三四、〇〇	三四〇	〇〇	
		三役員交際費	一六三、二八	一六〇	三、二八	本月支出ナキニヨル
		四賞與	一六四、〇〇	一六〇	四、〇〇	
		一備品費	一八、五五	五〇	△三一、四五	豫算ニ對シ金三十一圓四十五錢減シタルハ物品ノ買入少キニヨル〇金十九圓四十七錢消耗品費ヘ流用支出
		二消耗品費	四九、四七	三〇	一九、四七	豫算ニ對シ金十九圓四十七錢增シタルハ帳簿ノ買入多キニヨル此不足金備品費ヨリ流用受入
		三會費集金費	一四三、三五	二一〇	△六六、六五	豫算ニ對シ金七十六圓六十七錢減シタルハ拂込料金ノ減シタルニヨル
		四通信運搬費	一〇、〇〇	六〇	△四〇、〇〇	豫算ニ對シ金四十圓減シタルハ發信物ノ少キニヨル
		五雜費	三、〇三	八〇	△七六、九七	豫算ニ對シ金四十七圓九十七錢減シタルハ雜費ノ支出少キニヨル
三事業費	一、八一九、八七	一會報費	一、三九一、一二	一、八六〇	△四六八、八八	豫算ニ對シ金七十一圓八十錢減シタルハ紙數ヲ減シタルニヨル〇減額送料ヘ流用支出
		一印刷費	七二一、一〇	八四三	△一一一、一二	
		二編輯費	三四六、三〇	三五	三一一、三〇	豫算ニ對シ金三十一圓三十錢增シタルハ手當ヲ增給シタルニヨル此不足金豫備費ヨリ流用受入
		三送料	三三一、一六	一〇四	三一九、一六	豫算ニ對シ金二百十九圓十六錢增シタルハ第三種ヨリ約束ニ變更シタルニヨル此不足金七十一圓八十錢印刷費ヨリ金七圓五十五錢需用費ヨリ金百三十九圓八十一錢豫備費ヨリ流用受入

理事長より審査員をお願ひして適當者を選ぶことになつてゐます。今迄は學生に對して各科の卒業生中より選んでゐましたが本年は同窓生中の該當者にも出すことにし過日東京にて第一回審査會を開き第一回の受賞者として第三回製絲科卒業の故加美好男氏に決定致しました。贈呈も本會席上にて行ふべきでありますが御遺族も遠方ではありますのでやがて然るべき方法にて贈呈致したいと思ひます。其の他のことは各部門に於て其れ〳〵の理事より報告致します。

時局下二千有餘名の吾々干曲會員は母校のため及本會のため努力致したいと思ひます。どうか各位には此の氣持で本會のためのみならず銃後の一員として御活躍願ひたいと思ひます。本日は各種の問題に就て充分なる御審議を願ひ本會の發展のために御盡力の程御願ひ致します。此れを以て開會の挨拶と致します。

名譽會長挨拶

毎年一回の代議員會にて各地より集まつた卒業生が此の會館上にて相變らずの元氣な姿に接しますことは私として喜びにたへません目下時局下に於て殊にソロモン海戰も終了せざる時銃後の私共は勇躍奮闘しつゝある皇軍に無限の感謝を捧げたいと思ひます。此れを考へる時吾が校の發展及本會の發展延いては繊維業のため終日御協議を願ふのは誠に意義が深いものであります。どうか時間の許す限り充分に御審議の程願ひます。

蠶絲業は時局下產繭額を上げることを考へでおり製絲業も大轉換を致しつゝあります。母校に於ても此れにふさはしい卒業生を出すべく考へてゐます。只今第一回の針塚賞受賞者として故加美氏があげられたが此又誠に有意義のことであり、針塚先生の御高德をしのぶにも意義があることであります。加美氏は吾が國繊維業界の大功績でありましたが功半ばにして中絶したことは誠に哀悼にたへませ

昭和十七年度社團法人千曲會收支追加豫算表

收入

一金貳千百貳拾八圓也　收入追加豫算高

支出

一金貳千百貳拾八圓也　支出追加豫算高

收支皆當

昭和十七年十一月二十二日提出

社團法人千曲會理事長　蒲生俊興

收入

科目	追加豫算額	豫算額	說明
二會員名簿費	二六、五	二六、五	豫算ニ對シ金七圓五十五錢減シタルハ原稿用紙ノ買入少キニヨル○過額送料ヘ流用支出
三講習諸費			
四調査費	一〇、〇〇	一〇、〇〇	
五共濟費	一六、一八	一六、一八	
四基本財産造成費			
一基本財産造成費	二、一〇三、〇〇	二、一〇三、〇〇	
五交付金			
一會費納入交付金	三四、〇〇	三四、〇〇	
六補助金			
一補助金	七四、〇三	七四、〇三	
七豫備費			
一豫備費			
支出合計	六、四三、六八	六、四三、六八	

支出

科目	追加豫算額	既定豫算額	計	說明
四需用費	六、四三	七、一三六	六、五三、三	
一印刷製本費	三七、五	一四、九〇	五、四三	豫算ニ對シ金三圓減シタルハ手當ノ支給減シタルニヨル
二編輯料	七、五	三、〇〇		
三送料	六、八三	六三	一、一七	豫算ニ對シ金一圓十七錢減シタルハ發送數減シタルニヨル
四需用費	三、五	二五	一、一五	豫算ニ對シ金一圓十五錢減シタルハ用數ノ買入減シタルニヨル
一講師費			五、〇〇	本月支出ナキハ講師雇入ナキニヨル
二需用費			二、〇〇	本月支出ナキハ開會セザルニヨル
一調査費	一〇、〇〇	一〇		
一共濟費	一六、一八	一一〇	四五、一八	豫算ニ對シ金四十三圓十八錢增シタルハ弔慰料ノ支出多キニヨル此不足金豫備費ヨリ流用受入
一蓄積金	二、一〇三、〇〇	二、〇二五	一二、〇〇	豫算ニ對シ金二十七圓增シタルハ會費一時金納入者多キニヨル此不足金豫備費ヨリ流用受入
一會費納入交付金	三四、〇〇	三五二	一三五、〇〇	豫算ニ對シ金百五十三圓減シタルハ會費納入者減シタルニヨル
	三四、〇〇	三五二	一三五、〇〇	
	七四、〇三	三五〇	三五、九七	
一研究費補助	七四、〇三	三五〇	三五、九七	
二蠶絲學雜誌費補助	五九、〇三	三五〇	九	
一豫備費	一六、〇〇	三五、〇〇	三五、〇〇	豫算ニ對シ金三十五圓減シタルハ發行費ノ減シタルニヨル
		三五〇	三五〇、〇〇	
		三五〇	三五〇、〇〇	會報費編輯費ヘ金三十一圓三十錢○同送料ヘ金百三十九圓八十一錢○共濟費ヘ金四十三圓十八錢各流用支出

ん。同氏の御遺志により多數の圖書を御寄附戴き校内に保管致すことになりました。此れは加奈文庫として永く同氏の御功績をしのび且此れから後同氏の如き學生を出すことを祈つてゐます。

今日は學生の教練査閲の日でありまして時局下細部に亘り實施することゝなつてゐり、續いて報國隊の閲兵もあり此れには多數の職員が參加するので諸君と共に話すことも出來ませんが、晩の會合には充分に會談致したいと思ひます。甚だ撫辭でありますが此れを以て御挨拶と致します。

會務報告倉澤理事

前回總會に於て決議され本會に命ぜられた案件に就て報告致します。

一、會費納入期を三十ケ年に延長することは五月十六日に農林大臣より認可となりました。

一、本會と支會との聯絡のためプロツク會議開催の件に就いては昨年十二月八日情勢の變化のため實行不可能となりました。

一、千曲會報の編輯者が四月に交替となりましたことはすでに會報上に報告しました。

一、本年に於て會員中より〇名の尊き殉國者を出しました。謹んで哀悼の意を表します

一、三月二十一日大東亞纖維研究會を開催し會員三十五名、校内職員も出席して盛大に會談しました。此の催しは今後も續けたいと思ひます。

一、針塚先生の夫人が御死去致されましたことは會報上に報告致しましたので當時其れ〳〵適當なる處理を致しましたことは會報上に報告致しました。

議事

（一）昭和十六年度收支決算の件

決算表別紙の通り可決

昭和十八年度社團法人千曲會收支豫算表

收入

一金八千七百六拾九圓也

支出

一金八千七百六拾九圓也

收支差引皆當

昭和十七年十一月二十二日

社團法人千曲會理事長　蒲生俊興

收入豫算說明

科目	追加豫算額	既定豫算額	計	附記
二繰越金				
一前年度繰越金	八三三	八三三	一、一〇三	前年度繰越金增
四入會金				
一入會金	一、一〇〇	一、一〇〇	一、一〇〇	入會金納入者一人金二十圓宛六十人分
五會費				
一會費	九五	九五	三、七五	一時金納入者二人分
收入合計	二、一二八	六、七五〇	八、八六八	

支出豫算說明

科目	追加豫算額	既定豫算額	計	附記
三事業費				
一會報費	八三三	八三三	一、一〇三	
一印刷費	一九九	一九二	八六九	一ケ月增加額十三圓十錢此十ケ月分
二印刷料		三三	一、三五〇	一ケ月增加額金五圓三十錢此十ケ月分
二會員名簿費	二四九	二四九	四三	帶封代金十圓〇郵便切手代金三圓〇揃書代金二圓
三造本費		四五	六〇	
三講演謝禮費	三八五	三〇四	一、〇九	
一講師謝禮費	一五	一五	八四	一部增加額金八錢五厘此二千四百部代
二需用費	二〇〇	二〇〇	一〇〇	一部增額金二錢此二千二百五十部代
四基本財産造成費				
一基本財産造成費	一、二九五	一、二九五	三、二〇八	
一蓄積金	一、二九五	一、二九五	一、二九五	講師四人分
支出合計	二、一二八	六、七五〇	八、八六八	會場費金五十圓〇消耗品費金五十圓〇接待費金五十圓〇諸雜費金三十五圓
			二、一〇〇	入會金千二百圓〇一時金會費金九十五圓

(二) 昭和十七年度收支追加豫算の件
二、三の質問あり別紙の通り可決
(三) 昭和十八年度收支豫算の件
二、三の質疑應答ありたるも別紙の通り可決
(四) 役員選擧の件
本年は役員の改選なので理事長より時局に適した役員を選任する樣希望あり、委員制を以て別記の如き會員が選擧された
(名簿に掲載された故氏名は省略する)
(五) 賛助員推擧の件
新任された岡田準次教授を滿場一致賛助員に推擧した
(六) 忠靈顯彰に關する件(福島支會)
本事變に於て多數の殉國の士が出た、其の功績を永久に顯彰するために嚴肅なる忠靈殿を造り之等の勇士に感謝すると共に學生の訓育に資したいと云ふのであるが目下事變も進行中なので今は簡略のものを設け、將來各地の情況を調査して善處すると云ふ一致賛成あり尙具體的の方法は理事に於て研究して戴くことに一任された
(七) 其の他
福島、東京及滿洲支會より母校の發展策、蠶絲業の改革に際して本會として採るべき對策等に就き提案され、之等を一括して特に熟心に研討協議され、業界並に一般情勢の變轉に伴ひ適當なる發展的教育方針の樹立に對して一段の努力を乞ふ所があつた

第三回千曲會總會出席者氏名

福島支會　高須　兵司　竹内万二郎
茨城〃　前澤　康雄
群馬〃　岡部　彌平　橋本　景吉
埼玉〃　阿久澤　清　上杉慶次郎

收入

豫算說明(△印ハ減)

科目	豫算額	種目	本年度豫算額	前年度豫算額	增減	附記
一財産ヨリ生スル收入	一、五四八					
基本財産收入	一、五四八	一預金利子	一、五四八	一、四六四	八四	基本金ヨリ生スル一ヶ年分ノ利子
二繰越金	一、〇三三		一、〇三三	一、一三三	△一〇〇	
一繰越金	一、〇三三	一前年度繰越金	一、〇三三	一、一三三	△一〇〇	前年度剩餘金
三雜收入	六七二〇					
一廣告料	四二〇	一廣告料	四二〇	四二〇		會報廣告料
二印稅	一	一印稅	一	一		印稅收入
三雜收入	一三六	二雜收入	一三六	一三六		會報購讀者一人金六十錢宛百八十五人分
四入會金	一、三〇〇	一現金預金利子	一、三〇〇	一、三〇〇		此金百十一圓〇名簿一部代金三十錢宛五十部代金十五圓〇不要品賣却代金十圓
一入會金	一、三〇〇	一入會金	一、三〇〇	一、三〇〇		入會金納入者一人金二十圓宛七十五人分
五會費	三、八三二					
一會費	三、八三二	二準會員會費	三、八三二	三、九三五	△一〇三	一時金納入者一人金六十圓宛十人分此金六百圓〇年額金四圓宛納入者七百七十三人分此金三千九十二圓準會員年額八十錢宛納入者百十三人分
六寄附金	二〇〇					
一寄附金	二〇〇	一指定寄附金	二〇〇	二〇〇		蠶絲學雜誌發行費指定寄附金二百圓〇其他
		二一般寄附金	三〇	三〇		一般寄附金

支出

豫算說明(△印ハ減)

科目	豫算額	種目	本年度豫算額	前年度豫算額	增減	附記
一會議費	五五一					
一總會費	四五六	一代議員旅費	四五六	四五一	八五	代議員一人金十二圓二十錢宛三十人分
二役員會費	九五	二需用費	九五	八一	八五	印刷費金十五圓〇佛品費金十圓〇消耗品費金二十五圓〇雜費金二十圓
	二五		二五	二五		

東京〃　松村季美　田口敏夫
〃　上野榮仁　上野味澤泰造
〃　三浦重雄　吉田榮治
〃　富岡秀　小林運美
神奈川〃　飯島貞雄　櫻井隆夫
〃　高木三治　内山鶴雄
〃　竹内直人　大池登
北陸〃　猪坂直一　久保田昌人
北信〃　皆川二郎　丸山俊一郎
安銃〃　島倉督造
諏訪〃　員木元
新潟〃　白澤幹
三重〃　小見益男
岐阜〃　手塚雄一
近畿〃　唐澤正平
兵庫〃　湯川秀夫　鵜野誠一
滿洲〃　細川三郎　和田晋
上田在住　倉澤美徳　山口定次郎
蒲生俊興　坂口育三　關博夫　目崎正夫
上野義一　林貞三　窪田潤
山崎常錄　田中信重　萩原清治
山住炳熙　山寺豊一　吉越繁夫
野口新太郎　湯原誼　小林尚一
宮下丈夫　矢野進　久保藤一

隨筆　灸をうへる迄

抱一

病と云ふものは人がするものと思つて居た自分が病に犯された時程みぢめなものはないが、又こんな人間程病に對して心臟が强いものは無いと思ふ、自己を標準としてこんな事を云ふが恐らく一般的な感じ方と考へる。熱は何うして出るのか初めて體溫計を使つて此

	二事務所費	三事業費	四基本財産造成費	五交付金	六補助金
一給料					
二雜給					
三需用費					
一會報費					
二會員名簿費					
三講習講演諸費					
四調査費					
五共濟費					
一基本財産造成費					
一會費納入交付金					
一補助金					

| | | | | |

れは面白いもの位に考へ餘り水銀が高く昇るので狂つて居るのではないかと疑ふ位無智な自分だつた。其れが數ケ月續くうちに次第に恐ろしくなつて、稍々人並の盛情を持つ様になり更に月日が經過すると所謂神經質なお定りのものに煩る感じが强くなつて來た。

新聞を見れば一番先に藥の廣告を見たり、賣藥を買漁り、頻する病の療養書を讀んだりする自分となつてしまつた。此んなにも病と云ふものは人間の心理狀態を變化させてしまふのである。又思想も稍々宗教的にも及ぼされて「いくら焦つても無駄」と云ふ事を悟らせてくれた事は今考へて見れば人世の幸な一つのことを敎へてくれたと思つておる。人生は諦め方で此んな體ではとても駄目だと思ふ半面人はどんどん昇進し、休みも休みとせず盛んに活動しておる同輩に對して、治つても此んな人の後の後からついて行かねばならぬと云ふ消極的な悲觀を感ずる、其れが生活の「ひがみ」だ。然し自分には特に人世に於て長い休みを與へてくれたのだからよく落着いて考へよといふ自己滿足的な理窟を考案してじつと寢て居たものだつた。そんな時に灸が效く鍼が效くと云はれてやれ〳〵と云ふ側近の者の方が焦つておる現實の姿だ、餘りうるさく云はれて結局色々なものを讀んだり聞いたりすると病は治らぬものとなつてしまい、最後は現代人が一番信用を置いてない老人めいた灸や鍼に落着くのだ。生じつか敎育があるが爲に理論的に說明してくれなどと云ふ。病は現實であるが、これも人間性が然らしむる事だと考へる。然し理窟は何う付けても灸の熟いことは事實だ、正直に熟いからと斷ればよいではないかと云ふが仲々云へぬ人間性だ何んな事とて實行は大切だが方法は更に考慮を必要とする、結局施術者の人格を信賴する事で有り後で理窟を聞けば良いことだ。自分もお定りのコースから入つて遂に灸に落着き人にも話をして居る様な現在となつておる。

今後は灸の效く理窟を研究しようと考へておる自分である、口は仲々强い事を言つておるがまだ體が充分に言ふ事を聞かぬので困つてゐる、全快をしたら又大いに效能を書く事にする。

（筆者　製絲科二四回卒）

☆……☆

編輯後記

大東亞戰第二年を迎え、謹んで皇室の彌榮を慶賀し奉ると共に肇國以來の大理想の實現に向つて遲しき前進を續ける皇國前途の發展を祈り上ます。又南はガダルカナル島より北は鳴神、熱田島迄廣袤實に數萬キロの間に惡戰苦鬪する將兵の武運の長久を祈り、更に戰に斃くも散つた英靈に對して無限の感謝を捧げませう。そして今年も米英擊滅必勝の信念を以て頑張りませう。

衣料資源確保の重責を擔ふ吾が千曲會員各位には時局下責任の大なるを感じ一丸となつて國家の要請に添ふべく努力致しませう。酷寒の折りです愈々御自重御自愛を祈ります。

本號は總會號とも云ふべきもので大部分を總會のことで埋めました、御熟覽願ひます。尙年末休暇や母校の銀錬週間の催し等のため發行のおくれたことをおわび致します。

日頃われ〳〵のために御指導御協力下さつた會員各位に對し厚く御禮申上ますと共に今後一層の御力添賜はらんことを御願ひ申上ます。

（一、二七　荻原、山崎、坂口記）

昭和十八年一月二十日印刷
昭和十八年一月廿五日發行（非賣品）
上田蠶絲專門學校內
編輯兼發行人　荻原清治
上田市原町五七九五
印刷人（兼發行所）中澤二郎
上田市原町五七九五
印刷所　中澤印刷所
上田蠶絲專門學校內
發行所　社團法人千曲會
電話上田四〇六番・六六一番
東京四三三四番
振替口座長野六二四三番

基本財産（昭和十六年度末現在）

一、基本金（△印ハ減）

項目	金額
前年度繰越高	四八、九〇一、一四
本年度收入利子	一、七八四、八九
本年度積立金	二、一〇二、〇〇〇
內譯（入會金	一、五〇七、〇〇〇
一時金會費	五九五、〇〇〇
右ニ對スル利子收入	三〇、六七
通常會計ヘ支出	△一、二〇〇、〇〇〇
差引現在額	五一、六一八、七〇

二、海外留學資金

項目	金額
前年度繰越高	四五七、四四
本年度收入利子	一六、七〇
合計現在額	四七四、一四

三、研究奬勵資金

項目	金額
前年度繰越高	三三四、七四
本年度收入利子	一二、二二
本年度積立金	二〇、〇〇〇
合計現在額	三六六、九六

四、針塚賞資金（△印ハ減）

項目	金額
前年度繰越高	六、三六四、七八
本年度收入利子	二六五、三一
本年度支出額	△二五、九六
差引現在額	六、六〇四、一三

基本金管理區分

管理區分	金額
國庫債券	二一、〇五五、六六
三菱信託預金	一五、四〇八、四三
東京市債	六、〇〇〇、〇〇
安田銀行定期預金	八、六三二、二一
八十二銀行定期預金	七、五三一、〇七
郵便貯金	四三六、五六
合計	五九、〇六三、九三

支出合計

	八、七九九	八、七九九	八、八六八	△九九
七、豫備費				
一、豫備費				
一、研究費補助	三五〇	三五〇	三五〇	—
二、蠶絲學雜誌費補助		一〇〇	三〇〇	—
一、豫備費	三二〇	三二〇	三二〇	—
	三二〇	三二〇	三二〇	豫算超過ノ費途ニ充ツ

會員動靜

（一月十日現在）

行元　自忍（舊職）（住）爪哇派遣軍治一六〇二部隊（せ）陸軍司政官
石倉新十郎（舊職）東京市板橋區石神井谷原町一ノ一五二
高須　兵司（蠶一）農林省蠶絲試驗場仮坂支場長、蠶絲試驗所技師（福島縣信夫郡仮坂町）（住）仝上官舍
皆川　二郎（蠶四）長野縣蠶業試驗場松本支場長（松本市旭町）（住）松本市新田町三一二
佐藤　國一（蠶四）一（一月十五日）龜山製絲株式會社五島工場（三重縣三重郡大矢知村垂坂）電話四日市九〇七番（十二月）
永山　正秋（蠶五）滿洲國日本大使館理事官（住）新京日本帝國總領事館官舍一二號（十二月十二日）
岸田　繁雄（蠶七）連川中堅婦人養成所（京畿道連川）（住）仝上官舍（十一月二九日）
金崎　眞英（蠶九）長野縣蠶業試驗場（住）長野市中御所三ノ一六（十一月十七日）
深田　銀作（蠶一一）實仮地方事務所（愛知縣實仮郡國府町）（十二月二九日）
氏家　忠次（蠶一四）郡是製絲桑折工場（福島縣伊達郡桑折町）（一〇月二七日）
尾崎　利雄（蠶一七）東京府蠶業取締所立川支所（立川市）（住）東京府八王子市萬町一ノ哭
寺島一万太郎（蠶一〇）赤穗農商學校長（野縣上伊那郡赤穗町國富町）（十一月十一日）
稻葉　正一（蠶二）（住）（召集解除）名古屋市熱田區波寄町六三（一月五日）
倉澤　恒夫（蠶二）株式會社純水館精練所（長野縣北佐久郡小諸町）技師長（住）上田市坂井田町（十二月）
小林　輝夫（蠶二）東京府北多摩郡村山村東部第七八部隊鈴木隊本部（一月七日）
小松　茂男（蠶二）東洋精麻加工株式會社（吉林市興隆區興隆町）（京圖線哈達灘驛前）
山岸　政治（蠶二）（住）仝上甲社宅（九月七日）
渡邊　嘉博（蠶二）金北淳昌公立農業學校（金羅北道淳昌郡淳昌面）（十二月十一日）
西川　晉（蠶二）興農合作社中央會農事課（滿洲國新京特別市興仁大路）（十二月六日）
菱田　政二（蠶二）佐賀縣蠶業試驗場（佐賀小城郡小城町）（十二月二一日）
宮城　時久（蠶二）新京農蠶學校（愛知縣南設樂郡新城町）（十二月十二日）
小野　忠（蠶二）日本勸業銀行（東京市麹町區內幸町一ノ一）（十一月二二日）
（召集解除）片倉蚕桑試驗場（東京府八王子市外川口村字楢原）（十二月二九日）
川中　貞次（蠶二）滿洲國三江省佳木斯滿洲第六四六部隊越本隊（一月十三日）
吉田　信伍（蠶二）公用（留守宅）長野縣小縣郡神川村一〇四九（十二月十六日）
生天目久平（蠶二）（住）茨城縣久慈郡金砂鄉村下利員（十一月二一日）
伊藤　寛（蠶二）北支派遣吉田（栄）部隊松原隊（一月十三日）
谷澤　衛（蠶二）仝國蚕蠶業組合聯合會（東京市麹町區有樂町一ノ七蠶絲會館內）（住）東京市江戸川區小岩町三ノ一五八九淺川義則方（九月十一日）
北村元三郎（蠶二）長野縣立岩村田高等女學校（北佐久郡岩村田町）
田中　裳平（蠶八）滿洲國錦第一軍事郵便所氣付第七〇部隊特別訓練隊植草隊
佐藤　一助（蠶二）長野縣蠶業試驗場（長野市岡田）（住）長野縣小縣郡塩尻村
海水　寛（蠶二）塩尻村國民學校（住）長野縣小縣郡塩尻村
中島　英男（蠶二）（住）長野縣南安曇郡豊科町成相區
保男　英彦（蠶二）高崎市東部三八部隊新井隊（十二月三一日）
福田　矢村　正夫（蠶二）公用（留守宅）朝鮮成鏡北道清津村稻原町（十二月十五日）
戸谷　澄（蠶二）長野縣上水內農學校（長野市吉田）（住）吉田町原春苗方（二月一五日）
西川　正德（蠶二）金澤市大手町東部第四九部隊中島隊（一月三日）
木內　保平（絲二）社團法人帝國發明協會香川縣支部（高松市栗林公園商工奬勵館內）（十二月一四日）（住）高松市六番丁三ノ二
林　貞三（絲三）日立航空機株式會社立川工場（東京府北多摩郡大和村）（住）東京府八王寺市平岡町三三（一月八日）
本校製絲科長兼教務養成科長（住）上田市新參町舊館五、三八四
佐藤秀子男（絲一）愛國產業株式會社（川崎市藤崎町二ノ一〇八）（住）横濱市中區三春臺三三（十一月）
畠山茂忠太（絲三）東亞繊維工業（兵庫縣赤穗郡坂越村汐見町）（住）仝上社宅一號
本橋万三郎（絲三）片倉東武工場（埼玉縣北埼玉郡三俣村）（十二月三〇日）
土屋　孝一（絲三）群馬縣繭短繊維工業株式會社取締役（前橋市一毛町）（住）前橋市清王寺町四〇一番地
高馬　一郎（絲七）郡是製絲八鹿工場（兵庫縣養父郡八鹿町）（十二月二〇日）
酒井　淳夫（絲八）日本蠶絲統制長野出張所（通信先）長野市權堂町四二六（十二月三日）
荏木　愼藏（絲八）石川縣繭檢定所（石川縣河北郡津幡町）（一月十三日）
馬場　武（絲八）片倉（東京市京橋區京橋三ノ二）公用（留守宅）上田市松尾町馬場さた
黒岩京太郎（絲九）川西航空材料課（兵庫縣武庫郡鳴尾村鳴尾字大東一）（住）鳴尾村渡瀬
林　秀門（絲九）九ノ二（十二月九日）
本間　茂銳（絲九）郡是製絲美濃工場（岐阜縣加茂郡古井町）（住）仝上（十二月十五日）
高橋　英（絲一）奉天省公署內經濟部參事官奉天事務所氣付（工務官）（住）奉天市鐵西區甘露街二段六一號
森　正平（絲一）片倉製絲高知工場（高知市旭町二丁目）（十二月十五日）
今村　靍治（絲三）片倉研究所（埼玉縣大宮市吉敏町）電話大宮八〇番、八一番（十二月二六日）
片岡　金一（絲三）昭和產業一ノ宮工場（神奈川縣高座郡寒川村一ノ宮）（住）茅ヶ崎町新一ノ六、〇五（十二月）
田中　實（絲三）日本蠶絲統制群馬生絲檢查所（前橋市）（一月十三日）
內間　仁三（絲三）沖繩縣立女子工藝學校（住）沖繩縣那覇市若狹町一二六（十二月二日）
磯部　鐵雄（絲三）愛知縣大府町縣立大府莊五ノ三（十二月二七日）
原　相模（絲三）（舊姓、小林）日本繭繊維工業有限會社（東京市京橋區銀座三ノ三）公用（留守宅）東京市世田谷區池尻町三六九（十二月二三日）
楠森　定男（絲三）（住）三重縣松阪市鎌田昭和通り三角盛男方
小林　剛（絲三）廣海軍工廠造機部工作研究係（公）（通信先）長野縣北佐久郡南大井村平原（九月六日）
中村　廣（絲三）海軍工廠造機部研究係（住）横須賀市深田町七九內山喜代方（十二月）
湯本盃次郎（絲三）海軍神戸工廠造機部工作研究係（公）（通信先）長野縣北佐久郡南大井村平原（九月六日）
高橋　眞澄（絲七）昭和產業一ノ宮工場（神奈川縣高座郡寒川村一ノ宮）（十二月）
坂　求（絲九）龜山製絲株式會社（三重縣龜山町）（十二月二八日）
三浦　長平（絲九）東棉繊維工業（新義州府麻田洞一九〇）（住）朝鮮新義州府常盤町東棉社內（十二月三日）
松崎　武雄（絲一〇）帝國人絹岩國工場（山口縣岩國市）（十一月十七日）
寺井　子藏（絲一三）東洋レイヨン株式會社金津織布工場（福井縣坂井郡金津町新區）（住）福井縣坂井郡金津町六區（一月六日）
岩崎　正典（絲一六）吳羽紡績（富山縣下新川郡入善町）（十一月二九日）
中田　正信（絲一七）柏原紡績（大阪府南河內郡柏原町）（住）大阪府下柏原町市村七〇ノ一（十二月二一日）
柳澤　柳二（絲一七）興亞特繊會社（神奈川縣茅ヶ崎町）（住）茅ヶ崎町茅ヶ崎一三五九伊藤サヲ方
宮村　賢（紡三）繊維工業試驗所（横濱市神奈川區澤渡）電話（4）〇七八〇（住）横濱市神奈川區高島通二ノ三〇新興倶樂部（十二月）
伊藤要次郎（紡三）酒井繊維工業（福井縣小濱町）公用（留守宅）長野縣丸子町伊藤壽吉
加藤　邦雄（紡三）郡是大邱紡織工場（朝鮮大邱府）（住）仝上寄宿舍（一〇月）
深町　いつ（敎三）死亡（六月一六日）
北澤貴代子（敎五）北信繭絲販聯會上小工場寄宿舍（長野縣小縣郡塩川村石井）（十二月二九日）
田中　寛（敎八）死亡（十二月十二日）